

令和元年6月17日現在

機関番号：37401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12829

研究課題名（和文）ヴァラルコのサクロ・モンテの最初期の彩色木彫考

研究課題名（英文）Study of the Early Polychrome Wooden Statues of the Sacred Mountain of Varallo

研究代表者

関根 浩子（SEKINE, Hiroko）

崇城大学・芸術学部・教授

研究者番号：10553589

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：2015～2018年度（1年延長・実質3年）までの研究期間の中で、世界遺産ヴァラルコのサクロ・モンテの最初期の彩色木彫群をイタリア美術史に正しく位置づけるため、ヴァラルコだけでなく、北西イタリアの各地の教会堂や博物館に現存している中世末期から17世紀頃までの彩色木彫群を調査・実見、写真撮影し、併せて資料や文献の収集・閲覧を行った。そしてサクロ・モンテ管理運営財団の協力を得て、許可された範囲内で、ヴァラルコのサクロ・モンテの彩色木彫群の同定や現状把握を行い、構造や制作者、制作年代を明らかにするよう努め、2016年度は口頭で、また2018年度は論考として成果の一部を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来等閑視されてきたヴァラルコの最初期の彩色木彫群を美術史に正しく位置づけるため、また、同様に等閑に付されてきた北西イタリアに現存する中世末期から17世紀頃にかけての彩色木彫群の実態や現状を把握するための基礎研究であった。広域に及んだ本調査・研究によって、世界遺産に登録されたサクロ・モンテ群のうちの一施設・ヴァラルコのサクロ・モンテの初期の彩色木彫群と北西イタリアの各所に現存する主要な彩色木彫群の実見による同定や、保存・修復状況並びに各作品の調査・研究の現状把握は概ね達成されたと思われる。

研究成果の概要（英文）：From 2015 to 2018 (extension for one more year, substantially for three years), to place exactly the early wooden polychrome statues of the Sacred Mountain of Varallo, one of the world cultural heritages, in the Italian art history, I made on-the-spot surveys, took pictures and gathered research materials of those wooden statues from the Middle Ages to around the 17th century not only at Varallo, but also at churches and museums in many cities in the northwest Italy. And identified those wooden sculptures and comprehended their present conditions, I tried to clarify the structure, the makers and the ages of production of those statues. Still more, for a part of the results, I gave an oral presentation at an academic conference in 2016 and I published a paper in an academic journal in 2018.

研究分野：人文学（美術史・芸術学）

キーワード：ヴァラルコ サクロ・モンテ 彩色木彫

1. 研究開始当初の背景

ドイツやスペインのゴシック末期やバロック期の彩色された木彫による宗教彫刻が早くから美術史の研究対象とされてきたのに対し、イタリアのルネサンスやバロック期の彫刻については、一般に彩色を施さない大理石やブロンズを素材とした中央イタリアの彫刻に関する研究が圧倒的に多い。しかし稿者は、かつてイタリアに数多く存在するサクロ・モンテ群の発生や形態の変遷を調査・研究した際、幾つかのサクロ・モンテの礼拝堂内の木彫やテラコッタによる彩色群像彫刻が造形的にきわめて優れていることがわかった。また、それと同時に、それらがあまりに民衆的、迫真的であるためか、あるいは彩色彫刻に対する偏見のためか、近年まで「彫刻作品」としての十分な研究や紹介、正当な評価も受けず、美術史上で等閑に付されてきたこともわかった。

そこで、研究全体としては、サクロ・モンテ群の中でも最初に建設されたヴァラッロのサクロ・モンテを対象として、その彩色彫刻群を全体的に調査することで、それらの美術史上への正当な位置付けを行う予定であるが、本研究では、その全体構想のうち、まずは最初期に焦点を当てることにした。最初期には彩色木彫が配されたが、本研究ではそれらの誕生の必然性や造形的・技法的特徴などを、現地調査をもとに解明することにした。また、サクロ・モンテの彩色木彫のみならず、彩色彫刻全般がルネサンス以降等閑視されるようになった理由や経緯を解明し、その理由の妥当性を再検証することで、サクロ・モンテの彩色彫刻を民衆的な「人形」や「見世物」としてではなく、「作品」として再評価し、美術史上に正当な位置付けを試みることにした。

2. 研究の目的

研究の全体構想は、まだ「彫刻」として確たる位置付けを得ているようには思われず、北イタリアのヴァラッロのサクロ・モンテの各礼拝堂内の最初期（15世紀末）から現在に至るまでの彩色彫刻群の全体像と、それらの造形的・技法的特徴や変遷などを明らかにすることで、美術史上への正当な位置付けを行うことを目的とした。本研究では、その全体構想のうち、最初期の彩色木彫群に焦点を当て、それらの誕生の必然性や造形的・技法的特徴の解明を行おうとした。また、サクロ・モンテの彫刻を含む彩色彫刻全般がルネサンス以降等閑視されるようになり、それが現代においても続いている理由や経緯を明らかにし、さらにそうした理由の妥当性を再検証することで、ヴァラッロの彩色彫刻の「作品」としての再評価と美術史上への位置づけを試みようとした。

3. 研究の方法

本研究は、当初、単独で平成27年度から平成29年度までの3年間で予定であったが、平成29年度に当初の予定にはなかった出版作業や担任学生の海外研修引率などが入り、調査・研究を遂行することができなかった。そこで期間を1年延長し、平成30年度まで4年間実施した。

彩色木彫調査については、現地踏査を基本とし、初期のヴァラッロのサクロ・モンテで制作に携わった彫刻家たちの彩色木彫群の現存作例の同定や造形的・技法的特徴、各彫刻家の関係の解明を目指した。また同時に、北西イタリアの「コンピアント」の彩色群像彫刻等を実見・調査し、それらとヴァラッロの彩色木彫による群像表現との関係を解明することで、同地における彩色群像表現誕生の必然性を明らかにしようとした。

さらに、もう一つの課題である彩色彫刻に対するルネサンス以降の批評・評価の変遷については、主に文献渉猟による該当箇所調査、整理、分析によって解明しようとした。

また、平成28年度以降は、国内もしくは海外での口頭による中間報告、あるいは論文の投稿を行うことで研究成果を公開しようとした。

4. 研究成果

◆平成27年度第1回調査（8月17日～8月27日）

・調査地（地域・都市）

地域：ヨーロッパ（イタリア、特にピエモンテ州とロンバルディア州）

都市：ヴァラッロ、カンペルトーニョ、ロッカピエトラ、クアローナ、ミラノの各コムーネ

・調査先

ヴァラッロ：Pinacoteca di Varallo（ヴァラッロ絵画館）、Ente di Gestione dei Sacri Monti Riserva Speciale del Sacro Monte di Varallo（サクロ・モンテ・ディ・ヴァラッロのサクロ・モンテ特別保護管理局）、Chiesa di Santa Maria delle Grazie（サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会）、Chiesa di San Giacomo（サン・ジャコモ教会）、Chiesa di San Marco（サン・マルコ教会）、Biblioteca civica di Varallo（ヴァラッロ市立図書館）、Chiesa di San Gaudenzio（サン・ガウデンツィオ教区教会）

カンペルトーニョ：Chiesa parrocchiale di San Giacomo（サン・ジャコモ教区教会）、Oratorio di S. Maria delle Grazie（サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会）

ロッカピエトラ：Oratorio di Santa Maria di Loreto（サンタ・マリア・ディ・ロレート教会）

クアローナ：Chiesa parrocchiale di Sant'Antonio（サンタントニオ教区教会）、Chiesa di San Giovanni al Monte（サン・ジョヴァンニ・アル・モンテ教会）

ミラノ：Musei del Castello Sforzesco（スフォルツァ城博物館）

- ・目的・内容：ヴァラッロのサクロ・モンテの最初期の彩色木彫群の実見・同定と、それらに関係があると思われる中世末期からルネサンス初期にかけてのピエモンテとロンバルディア州における彩色木彫群の実見と写真撮影並びに修復時の情報収集や文献・資料収集
- ・対応者：ヴァラッロ：Ente di Gestione dei Sacri Monti Riserva Speciale del Sacro Monte di Varallo（サクロ・モンテ・ディ・ヴァラッロのサクロ・モンテ特別保護区管理運営財団）の財団長及び局員、Pinacoteca di Varallo（ヴァラッロ絵画館）職員、Biblioteca civica di Varallo（ヴァラッロ市立図書館）司書、Chiesa parrocchiale di San Giacomo（サン・ジャコモ教区教会）の司祭、その他教会堂の鍵の管理者など
- ・成果：世界遺産の一つであるヴァラッロのサクロ・モンテの礼拝堂群の中には何人も立ち入ることが許されていないが、サクロ・モンテ管理運営財団長 Elena De Filippis 女史の特別許可により、彩色木彫が配されている礼拝堂の鉄格子を開錠頂いて木彫像を撮影させて頂けたことや、同女史が把握している範囲で現存する木彫像の構造や材質等についてご教示頂いたこと、また修復を終えた一部の木彫像の修復時の写真データ等をご提供頂いたことで、ヴァラッロの初期の木彫群の全体像を概ね把握できた。



堂内入場を許可されたヴァラッロのサクロ・モンテ第38堂内での作業時の様子



ご提供頂いたヴァラッロのサクロ・モンテ第43堂<キリストの墓>の死せるキリスト像修復時に撮影された胸部の構造を示す画像（撮影：E. D. Filippis）



フラテッリ・デ・ドナーティ 《塗油石》（元来は第40堂に設置されていたもの）彩色木彫 1486-93年頃 ヴァラッロ 絵画館

◆平成27年度第2回調査（平成28年3月17日～3月29日）

- ・調査地（地域・都市）
地域：ヨーロッパ（イタリア、特にロンバルディア州）
都市：ミラノ、パヴィーア、ヴィジェーヴァノ、ローディ、ヴァレーゼ、サロンノ、コモ、トルノ、モルベーニョ、チーヴォ、アルデンノ、ポンテ・イン・ヴァルテッリーナ、カイオーロの各コムーネ
- ・調査先：調査対象作品があるロンバルディア州の以下の美術館や教会堂、病院など
ミラノ：Chiesa di San Tomaso, Museo Poldi Pezzoli, Museo Bagatti Valsecchi, Museo del Duomo, Chiesa di Santo Sepolcro
パヴィーア：Chiesa di San Teodoro, Chiesa di San Michele, Pinacoteca Malaspina
ローディ：Duomo
ヴィジェーヴァノ：Chiesa di sette dolori, Duomo, Ospedale civile
ヴァレーゼ：Chiesa di San Vittore, Chiesa della Madonna del Monte, Romite Ambrosiane, Museo Baroffio
コモ：Duomo
トルノ：Chiesa di Santa Tecla
モルベーニョ：Santuario Beata Vergine Assunta
カスパーノ：Chiesa di San Bartolomeo
アルデンノ：Chiesa di San Lorenzo
ポンテ・イン・ヴァルテッリーナ：Chiesa di San Maurizio
カイオーロ：Oratorio di San Pietro Martire
サロンノ：Santuario di Saronno, Chiesa di San Francesco
- ・目的・内容：北西イタリア、特にロンバルディア州に現存する「コンピアント」やその他の彩色群像、彩色木彫の実見や写真撮影、関連文献・資料収集

- ・対応者：ミラノ：Chiesa di San Tomaso, Museo Poldi Pezzoli (学芸員)、Museo Bagatti Valsecchi (監視員) / ローディ：Duomo (ローディ教区司祭) / ヴィジェーヴァノ：Chiesa di sette dolori (Marina Ferrari 女史), Duomo, Ospedale civile(市立病院院長、絵画室管理者) / ヴァレーゼ：Chiesa di San Vittore, Chiesa della Madonna del Monte, Romite Ambrosiane (女子修道院修道院長)、Museo Baroffio (学芸員) / コモ：Duomo (大聖堂監視員) / モルベーニョ：Santuario Beata Vergine Assunta (元教員の郷土史家) / カスパーノ：Chiesa di San Bartolomeo (教区司祭) / アルデンノ：Chiesa di San Lorenzo (教区司祭) / カイオーロ：Oratorio di San Pietro Martire (鍵の管理者) / サロンノ：Santuario di Saronno (同巡礼聖堂附属古文書館のアルキヴィスタ)、Chiesa di San Francesco (教区司祭)
- ・成果：体力と時間の許す限りロンバルディア州のコンピアント群像を中心とする彩色群像彫刻を実見し、許可頂けた教会堂などでは近距離かつ背後からも群像をじっくり観察し、撮影させて頂けたことが第2回調査の最大の成果であった。また、世俗の人間との直接面会が許されないヴァレーゼの厳格な女子修道院では、修道院長より貴重な文献を頂いただけでなく、未紹介の彩色木彫レリーフ群が同修道院に存在しているという情報やそれらの画像データを提供頂くこともできた。



ロンバルディアの彫刻家 《コンピアント》
15世紀前半 彩色木彫 大聖堂 ローディ



フラテッリ・デ・ドナーティ 《コンピアント》 1510年頃 彩色木彫 サン・バルトロメオ聖堂 カスパーノ

◆平成28年度第1回調査(8月24日～9月5日)

- ・調査地(地域・都市)
地域：ヨーロッパ(イタリア、特にピエモンテ州とスイス)
都市：トリノ、モンカリエーリ、キエーリ、イヴレア、キヴァッツ、アレッサンドリア、アステイ、ミラノ、メレニャーノ、ノヴァーラ、オルタ、サン・ジュリオ島、ロカルノ(スイス)、ピアチェンツァの各コムーネ
- ・調査先：調査対象作品があるイタリアのピエモンテ州とスイスのロカルノの以下の美術館や教会堂など
トリノ：Palazzo Madama (Museo Civico d'Arte Antica)、Galleria Sabauda, Chiesa della Madonna del Calmine, その他、Duomo や Duomo 附属美術館、Palazzo Reale
モンカリエーリ：Chiesa di Santa Maria della Scala
キエーリ：Duomo
イヴレア：Museo Civico Pier Alessandro Garda e del Canavese, Duomo
キヴァッツ：Duomo di Santa Maria Assunta
アレッサンドリア：Duomo, Chiesa di San Sebastiano, Chiesa di Santa Maria di Castello, Chiesa di San Giovannino, Chiesa di Santo Stefano
アステイ：Duomo, Chiesa di San Giuseppe, Chiesa di San Secondo, Chiesa di San Paolo
メレニャーノ：Chiesa di San Satiro, Chiesa dei San Pietro e Biagio
ノヴァーラ：Duomo, Chiesa di Sam Gaudenzio
オルタ・サン・ジュリオ：Basilica, Sacro Monte di Orta
ロカルノ(スイス)：Santuario della Madonna del Sasso
ピアチェンツァ：Chiesa di Sant'Anna, Duomo, Palazzo Farnese (Museo Civico), Chiesa di San Francesco
- ・目的・内容：北西イタリア、特にピエモンテ州やスイスのロカルノ市に現存するサクロ・モンテやその他の教会堂・美術館等の「コンピアント」やその他の彩色彫刻群、彩色木彫群の実見や写真撮影、関連文献・資料収集
- ・対応者：特になし
- ・成果：時間の許す限りコンピアント群像を中心とする彩色群像彫刻を実見し、北西イタリアには木彫やテラコッタのコンピアント群像が多数現存していることを確認できた。そして実証には至らないまでも、これらの群像がヴァラッロのサクロ・モンテの群像表現へ至る素地の一つであった可能性を確信できたように思えた。

◆平成28年度第2回調査(平成29年3月21日～4月1日)

- ・調査地(地域・都市)

地域：ヨーロッパ（イタリア特にピエモンテ州とスイス）

都市：ミラノ、ヴァラッロ、ボッチョレート、ボルゴセージア、ロッサ、ルガーノ、ベッリンゾーナ

- ・調査先：調査対象作品があるイタリアのロンバルディア州やピエモンテ州、スイスのカントン・ティチーノ州の2都市の以下の美術館や教会堂など

ルガーノ：Chiesa di Santa Maria degli Angioli

ベッリンゾーナ：Chiesa di Santa Maria delle Grazie

ヴァラッロ：Sacro Monte（管理事務所含む）、ファリノーネ・チェンタ図書館

ボッチョレート：Chiesa di Santa Maria Annunziata, 教区教会

ロッサ：教区教会

ボルゴセージア：Chiesa di Sant'Antonio

ミラノ：Chiesa di Santa Maria presso San Satiro

- ・目的・内容：まだ調査の終わっていない北西イタリア、特にピエモンテ州やスイスに現存するサクロ・モンテやその他の教会堂・美術館等の「コンピアント」やその他の彩色群像、彩色木彫の実見や写真撮影、関連文献・資料収集

- ・対応者：ヴァラッロ市：サクロ・モンテ管理事務所員 Stefano Aietti 氏、他／ボッチョレート、ロッサ：Don Luigi Guglielmetti 教区司祭／ボルゴセージア：Don Ezio Caretti 教区司祭代理（Paolo Antoniazzi 氏）

- ・成果：教区司祭のグリエルメッティ氏の御協力で、ヴァラッロに近いボッチョレートのサンタ・マリア・アッヌンツィアータ聖堂のかつて実見したことのある彩色木彫群像《コンピアント》の修復後の状況を再見し、間近から構造などを詳細に確認でき、さらに貴重な修復報告書の写しをご提供頂くこともできた。また、書籍上では行方不明とされている木彫群が、盗難防止のために近隣の村の教会の天井裏などに保管されていることも判明した。さらにヴァラッロに近いボルゴセージアのサンタントニオ小聖堂では、時代は下るものの、ヴァラッロの第43堂《キリストの墓》の死せるキリスト像に連なる複数の役割をもったキリスト像や、頭部と手のみ完成された木彫のマネキン像などを調査できたことが本調査の最大の成果であった。



作者不詳 《コンピアント》 彩色木彫
16世紀半ば サンタ・マリア・アッヌンツィアータ聖堂 ボッチョレート



左：作者不詳 「死せるキリスト」
「エック・ホモ」「磔刑」の三重の役割を果たすキリスト像 彩色木彫 1665年頃 サンタントニオ小聖堂 ボルゴセージア
上：「磔刑」の際に交換されるキリストの腕

◆平成30年度調査（9月7日～9月18日）

- ・調査地（地域・都市）

地域：ヨーロッパ（イタリア、特ロンバルディア州）

都市：アローナ、ピアンドラーテ、サロ、トレヴィリオリオ、ベルガモ、モルターラ、ガンボロ、グロペッロ・カイローリ、メダ、モンツァ、ベッラーノ、ティラーノ、ソンドリオ、クレマの各コムーネ

- ・調査先：調査対象作品がある主にロンバルディア州の以下の美術館や教会堂など

アローナ：Chiesa di Santa Casa di Loreto, 教区聖堂、サクロ・モンテ

ピアンドラーテ：ノヴァーラ市立博物館の保管庫

サロ：Duomo, MUSA（美術館）

トレヴィリオリオ：Chiesa di San Martino

ベルガモ：Duomo, Chiesa di Santa Carmine

モルターラ：教区教会、Chiesa di Santa Croce

ガンボロ：Chiesa di San Paolo

グロペッロ・カイローリ：Chiesa di San Giorgio Martire

メダ：Santuario di San Vittore

モンツァ：教区博物館

ベッラーノ：Chiesa di Santa Marta, Chiesa di Santi Nazaro e Cerso, Chiesa di Sant'Andrea)

ティラーノ：Santuario della Madonna

ソンドリオ：市立博物館

クレマ：Duomo

・調査の概要

目的・内容：まだ調査の終わっていない北西イタリア、特にロンバルディア州の教会堂・美術館に現存する「コンピアント」やその他の彩色群像、彩色木彫の実見や写真撮影、関連文献・資料収集

・対応者：ヴィジェーヴァノ：サン・ディオニジ聖堂の管理者 Sara Damiano 氏（但し列車が乗り換え先以降普通となり、現地まで伺えなかった。）／ピアンドラーテ：ノヴァーラ市立博物館キュレーター Igor Festari 氏（動物学者）、保管庫の管理者 Gabriele Di Gresy 氏、Filippo Di Gresy 氏）／メダ：サン・ヴィットーレ聖堂所有者の弁護士 Giovanni Antona Traversi 氏、Associazione Amici dell'Arte のご担当者 Fravio Alberti 氏

・成果：ノヴァーラ市立博物館のキュレーターのご協力で、ノヴァーラからかなり離れた保管庫にパッケージされている古いコンピアント群像を実見し、構造や現状を確認させて頂けたこと、また、メダのサン・ヴィットーレ聖堂の現所蔵者であるトラベルシ氏などの御協力で、廃寺となった同聖堂内にあるコンピアント群像を実見、写真撮影させて頂けたことが、研究期間最後の調査の大きな成果であった。



ヴァルセージアの彫刻家 《ピエタの群像》（部分） 彩色木彫 1475-1480 年 ノヴァーラ市立博物館 現在はピアンドラーテの保管庫



アンドレア・ダ・サロンノ 《コンピアント》 彩色木彫 1520 年頃 旧サンチュアリオ・ディ・サン・ヴィットーレ メダ



ロレンツォ・ダ・モルターラ？ 《聖ヨセフのアンコーナ》 彩色木彫 1515-20 年頃 サン・ロレンツォ聖堂 モルターラ

総括：本研究は、「研究の方法」に記したように大きく二つの研究課題から成り、さらに一つの課題が二つの課題から成っていたが、調査対象が広域・多数にのぼったため、実質3年間の調査・研究期間は主に作品の実見・写真撮影に多くの時間を割き、二つ目の課題には殆ど手を付けられなかった。また、一つの課題のうち、広域に存在する彩色のコンピアント群像とサクロ・モンテの群像との関係についても、調査結果を整理して考察し結論を出すには至っていないため、今後、論文や口頭発表の形で研究成果や考察結果を公開していく必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

・関根浩子 (単著) 「ヴァラッロのサクロ・モンテの彩色木彫—第 43 堂〈キリストの墓〉の《死せるキリスト》像再考—」『デアルテ』 35 号 九州藝術学会 2019 年 3 月 117-140 頁

[学会発表] (計 1 件)

・関根浩子 (単独) 「ヴァラッロのサクロ・モンテの彩色木彫—第 43 堂〈キリストの墓〉内の《死せるキリスト象》の制作者・制作時期の最高—」平成 28 (2016) 年 11 月 26 日 於：九州藝術学会第 95 回大会 (会場：佐賀大学)

[雑誌・翻訳] (計 1 件)

・ピエトロ・ガッローニ著 関根浩子 訳 (単訳) 「ヴァラッロのサクロ・モンテ(1)」『崇城大学芸術学部研究紀要』第 10 号 pp. 93-110

6. 研究組織

(1) 研究分担者：なし

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：水落温美

ローマ字氏名：MIZUOCHI Atsumi